

中臣女郎、大伴宿禰家持に贈る歌五首

六七五番

をみなへし 佐紀沢に生ふる 花かつみ かつて
も知らぬ 恋もするかも

六七六番

海の底 奥を深めて 我が思へる 君には逢はむ
年は経ぬとも

六七七番

春日山 朝居る雲の おほほしく 知らぬ人にも
恋ふるものかも

六七八番

直に逢ひて 見てばのみこそ たまきはる 命
に向かふ 我が恋やまめ

六七九番

否と言はば 強ひめや我が背 菅の根の 思ひ乱
れて 恋ひつつもあらむ